

薬学部図書室紹介

—シリーズ「京都大学図書室巡り」—

薬学部は、1960（昭和35）年4月前身の医学部薬学科から京都大学第9番目の学部として独立しました。1997（平成10）年4月からは大学院薬学研究科・薬学部として活動しています。ですから、本来は大学院薬学研究科・薬学部図書室としないといけないのですが、ここでは以下簡単に薬学部図書室と呼ぶことにします。

薬学部図書室は、閲覧席が30席あまりのこじんまりした図書室です。薬学部建物の東の端、薬学部記念館の一階が図書室になっています。室内は開架式の書架と閲覧席、事務室部分になっています。事務室部分は一面がカウンターになっていますが、基本的に開放されており、利用スペースと事務スペースが仕切られた構造にはなっていません。

学内の利用者は入館・閲覧に対して特に手続きの必要はありません。開架書架部分は利用者に自由に見て貰っています。1980年以前の雑誌は地下書庫に別置していますので、それらをご利用の時は職員に声をかけてください。一日の来館者数は通常日だと200人前後です。最近では、閲覧席が満席になることも結構あります。文献複写の依頼を受け付けていますので、校費で複写される場合は文献複写依頼書を持参してください。私費のばあいは現金でお支払いください。学部外の人で貸し出しを希望される方は、お手数ですが相互利用書をご持参ください。

学外からの文献複写依頼はかなりたくさんあります。最近では学術情報センターのILL (Inter Library Loan) システムを利用して、コンピュータネットワークで依頼するのが主流です。ち

なみに、薬学部図書室が平成9年度にILLシステムで受け付けた件数は3,262件です。年間の開館日はだいたい245日前後ですから、一日に13件ちょっとになります。現金での複写依頼も受け付けていますので、システム以外にも郵送、FAX、来館等で依頼があります。

図書室職員は四名です。ベテラン、中堅と若手の組み合わせで構成されており、職員の能力・意欲は京都大学図書館・室の中でも有数であるとは思っているのですが、残念なことにそうやって誉めてくれる人はいません。

蔵書構成は自然科学系の図書室であるため、洋雑誌が中心になっています。コレクションとしては本草関係の国書・漢籍が約440点あります。このなかの「本朝食鑑」はNHK教育テレビ「うまいもの名鑑」の「すぐき」を紹介する番組でも使われました。また、化学をやられる人は誰でもご存知のケミカル・アブストラクトを冊子体で1997年までそろえています。1998年から冊子体は附属図書館に設置し、CD-ROM版を農学部、工学部、理学部と共に、全学で利用できるようネットワーク提供しています。この他にも薬学部には色々な資料があります。

自然科学系のばあい、図書館にこなくても必要な資料が入手できるように徐々になりつつありますが、薬学部図書室はまだ現役です。ぜひ、一度利用してみてください。そして、分からないことがあれば職員に声をかけてください。

(前薬学部図書掛長 渡邊 誠)